

(様式1)

平成31年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 052	提案機関名 神奈川県畜産会
要望問題名 獣害に強い高たんぱく自給飼料作の検討	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 近年、イノシシなど鳥獣害の被害により県内の自給飼料作付け面積は伸び悩んでいる、また、大豆を中心とした高たんぱく飼料価格は高騰し、代替飼料の検討が求められている。 そこで、大豆等の高たんぱく飼料について①鳥獣害に対する影響、②作付け体系、③経済性等を検討していただきたい。	
解決希望年限	①1年以内      ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内      ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター    ③水産技術センター    ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画指導部企画研究課
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中    ③継続検討    ④実施済    ⑤調査指導対応    ⑥現地対応    ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 飼料用ダイズとイタリアンライグラスの二毛作体系による飼料生産技術の開発(平成30～32年度)			
対応の内容等 当所では、ウシ用の高タンパク質飼料の生産方法として、平成30年から「飼料用ダイズとイタリアンライグラスの二毛作体系による飼料生産技術の開発」に取り組んでいます。ダイズを飼料用として生産する場合、登録された農薬がないため、雑草防除の方法としてイタリアンライグラスの再生草をリビングマルチとして利用する、飼料用ダイズとイタリアンライグラスの二毛作体系について検討しています。 一方、食用ダイズでは、イノシシによる被害が報告されていますが、被害はダイズの成熟期に多く発生しています。飼料用ダイズでは、主として茎葉を利用するため、イノシシによる被害が発生する前のダイズ種子が未熟な時期に収穫することが可能であり、被害を軽減できる可能性があります。 今後、実施中の「飼料用ダイズとイタリアンライグラスの二毛作体系による飼料生産技術の開発」において、収量が最大となる作付体系及び経済性について検討し、イノシシによる被害が発生する地域での現地試験についても計画していることから、試験の中で鳥獣害に対する影響についても調査する予定です。			
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内      ③4～5年以内      ④5～10年以内		
備考			